

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	有田市立初島小学校	奥村 裕
学校所在地		
(〒 649 - 0307) 和歌山県有田市初島町里1242 tel 0737(82)2467 fax 0737(82)2273		
担当者名		役職名・担当教科
三木 悠輔		6年生担任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は有田市の西北部に位置し、かつては農業や漁業が盛んな地域であったが、経済や社会情勢の変化により現在は人口減少が進み、保護者の職業も多様化している。一方で、地域の教育への関心は高く、リサイクル活動などを通して学校教育に大変協力的である。児童は明るく真面目に活動する姿が多いが、学習面や人間関係に課題を抱える児童もいる。学習面では、国語科の表現力や算数科の活用力に課題が見られるため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を重視した教育を進め、地域や保護者と連携しながら児童の健やかな成長をめざしている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年6年生15名	4名 職員4名	三軒茶屋跡～熊野本宮大社
実践研究テーマ		
体験的な学習を通じた世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の理解と継承意識の育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	未来へつなごう！わたしたちの世界遺産～紀伊山地の霊場と参詣道～	
〔キーワード〕 世界遺産学習 現地学習 継承		
<p>〔単元目標〕</p> <p>(1) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、調べ学習や現地での体験活動を通して、その歴史的背景や文化的価値、自然環境の特色を理解し、地域のよさや魅力を捉えようとする。（知識及び技能）</p> <p>(2) これまでの学習経験を生かし、資料調査やインタビュー、体験活動などの方法を工夫して必要な情報を集め、比較・整理しながら考えを深め、世界遺産の価値や大切さについて自分なりの考えを分かりやすく表現しようとする。（思考力・判断力・表現力）</p> <p>(3) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が多くの人々の関わりによって守られてきたことに気づき、地域の文化や自然を大切に、次世代へ継承していこうとする態度を養い、これからの自分の生き方について考えようとする。（学びに向かう力、人間性）</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 10 時間 （「和歌山の世界遺産」 3 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県世界遺産センター・・・次世代育成事業（事前学習・現地学習） ・世界遺産マスター・・・次世代育成事業（現地学習） 		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1 世界遺産とは何かを知る。	視覚資料（写真・映像）を用い、具体的なイメージをもたせる。	発言・ワークシート （①知識及び技能） 活動中の様子 （③学びに向かう力、人間性）
2	2 和歌山県の世界遺産について知る。	職員の説明で理解を支える。	発言 （①知識及び技能） 活動中の様子 （③学びに向かう力、人間性）
3	3 現地学習を通して体験する。	安全面に配慮しながら、現地ガイドの話を取り入れる。	活動中の様子 （③学びに向かう力、人間性）
4	4 自分の興味のある和歌山県の世界遺産について調べる。	調べ方の例（本・パンフレット・インターネット）を示す。	資料の集め方・整理 （②思考力・判断力・表現力） 活動中の様子 （③学びに向かう力、人間性）
5	5 まとめ・発表をする。	発表の観点（分かりやすさ・自分の考え）を事前に示す。	発表内容 （②思考力・判断力・表現力） 活動中の様子 （③学びに向かう力、人間性）
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>【成果】本単元では、調べ学習や世界遺産センターでの事前学習、現地での体験活動を通して、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についての理解を深めることができた。児童は、世界遺産が歴史的・文化的・自然的価値をもつものであり、多くの人々の努力によって守られてきたことに気付き、今後も大切に、次世代へ継承していかなければならないという意識を高めることができた。</p> <p>【課題】一方で、和歌山県全体の世界遺産への理解は深まったものの、自分たちの生活圏により近い地域の世界遺産や文化財にまで視点を広げることが十分にできなかった。今後は、身近な地域に目を向け、自分たちとのつながりをより強く意識できるような学習活動の工夫が必要である。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>本単元を通して、児童は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について理解を深めることができた。ふり返りでは、「ただの山道だと思っていたが世界遺産だと知った」「天皇が歩いた道と知った」「昔の人はすごい」といった声があり、歴史的・文化的価値への気付きが見られた。また、実際に参詣道を歩いたことで、当時の人々の苦労や思いを実感するとともに、神社での作法を学ぶなど、体験を通じた学びが深まった。これらの学習を通して、児童は和歌山県の世界遺産のすばらしさを知り、文化や自然を大切に、次世代へ継承していく意識を高めることができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>本単元における世界遺産学習は、実際に現地を訪れて体験することで、世界遺産の価値や人々の思いを実感できる大変意義深い学習となった。資料だけでは得られない気付きや感動を伴う体験は、児童の理解を深め、地域の文化や自然を大切にしようとする意識を高める上で大きな効果があった。今後は、この体験的な学びを生かし、より身近な地域の文化財にも目を向けるとともに、学習成果を発信する機会を設け、継承への意識をさらに高めていきたい。</p>			

様式 2

令和7年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

【令和7年11月14日（金）2限目】

事前学習では、和歌山県にある世界遺産について学び、熊野古道や熊野本宮大社、参詣道の歴史や役割などを詳しく教えていただいた。世界遺産がどのような価値をもつのか、なぜ現在まで大切に守られてきたのかについて、分かりやすく説明していただいたことで、児童の理解が深まった。

また、パワーポイントを用いた説明や写真資料を通して、実際の様子を具体的にイメージすることができ、児童は興味をもって話を聞く姿が多く見られた。事前に知識を得たことで、現地学習への期待が高まり、世界遺産を自分事として捉えるきっかけとなる学習となった。



【令和7年11月28日（金）】

現地学習では、実際に参詣道を歩いたり、熊野本宮大社周辺を見学したりすることで、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について体験的に学ぶことができた。児童のふり返りには、「ただの山道だと思っていたが世界遺産だと知った」「天皇が歩いた道だと分かった」「昔の人はすごい」「実際に歩いてみて大変さや苦勞が分かった」などのふり返りがあり、歴史的価値や当時の人々の思いへの理解が深まったことがうかがえる。

また、神社での作法を学んだことで、信仰や文化が現在まで受け継がれていることにも気付くことができた。さらに、和歌山県世界遺産センターの見学を通して、世界遺産の歴史や保存の取組について学ぶとともに、世界遺産マスターの方の話聞き、楽しみながら理解を深めることができた。

今後、世界遺産を残していくために自分たちにできることとして、「意識して大切にしていきたい」「周りの人に広めたい」「自然や環境を守りたい」「さらに調べてみたい」「現地に足を運びたい」といった意見が出され、世界遺産を守り、次世代へ継承していくとする意識を高める学習となった。

